2023年度日本看護系大学協議会(JANPU)災害支援対策委員会企画
災害フォーラム「災害に対する大学の備えの現状と今後の方向性」開催のご報告

1. 開催日時

2024年2月17日（土）13時～15時

2. 開催方法

Zoomウェビナーによるオンライン配信

3. テーマ：「災害に対する大学の備えの現状と今後の方向性」

4. 企画趣旨

近年、地球温暖化等の影響により、猛暑や台風などによる風水害の発生は増加の一途をたどっており、その影響は筆舌に尽くしがたい状況となっている。さらに、2020年からの新型コロナウィルスによる影響も加わり、JANPU会員校では教育や実習を維持継続するため、危機対策や備蓄や訓練などの防災対策が要課題となっている。災害支援対策委員会では、2023年度に「防災マニュアル指針2022」を会員校に送付し、WEB上での配信を行った。さらに平時の防災・災害対策に関する実態把握のために会員校を対象にアンケート調査を6年ぶりに実施した。この結果を報告し、大学の防災・減災に関する今後の課題や対応について、会員校の皆様と意見を交わしたいと考え、本企画を行うこととした。

5. 概要

本フォーラムでは当初、1)「災害の備えに関するアンケート調査」結果の説明、2）2023年度災害支援対策委員会ブロック活動の概要、3）災害対策に関する事例の紹介と予定したが、1月1日に令和6年能登半島地震が発生したことを受け、プログラムに「令和6年能登半島地震 JANPU被災状況調査結果の報告」を追加することとなった。開会に先立ち、能登半島で発生した大地震で亡くなられた方への黙祷を行った。概ね予定時間通りにすべてのプログラムを進めることができたが、質疑応答は10分程度となった。参加者からの質問や意見はなく、登壇者で質疑応答を行った。

1）令和6年能登半島地震 JANPU被災状況調査結果の報告

災害支援対策委員会委員　山﨑加代子（敦賀市立看護大学）

https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2024/02/2024notojishin.pdf

2)「災害の備えに関するアンケート調査」結果の説明

災害支援対策委員会委員　竹本由香里（宮城大学）

https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2024/02/2023saigaisonae-chosa.pdf

3）2023年度災害支援対策委員会ブロック活動の概要

災害支援対策委員会委員　西上あゆみ（藍野大学）

https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2024/02/saigairenkei-block.pdf

4）災害対策に関する大学の事例報告

(1)地域防災組織と協働した社会貢献活動　　霜山真氏（宮城大学）

https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2024/02/20240217saigai-forum_jireihoukoku1.pdf

(2)学生・教職員の防災士取得と避難訓練での取り組み　　近藤彰氏（藤田医科大学）

https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2024/02/20240217saigai-forum_jireihoukoku2.pdf

(3)積雪寒冷地域の冬期被災を想定した本学の取り組み

尾山とし子氏（日本赤十字北海道看護大学）

発表者の都合で資料なし

5）質疑応答

＜参加人数およびアンケート結果＞

1.　参加人数

事前の参加申込人数は 377 名

当日の参加人数は 252 名（委員・事務局・話題提供者を除く）

2.　アンケート結果

グーグルフォームでフォーラム終了直後～2 月 24 日まで収集：回答者数 163 名

1）　回答者の属性

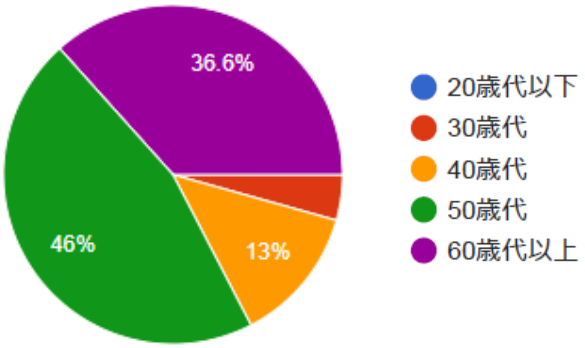

図 1　年齢

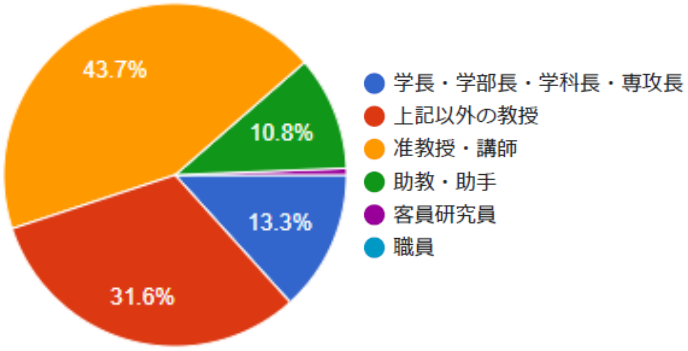

図 2　職位

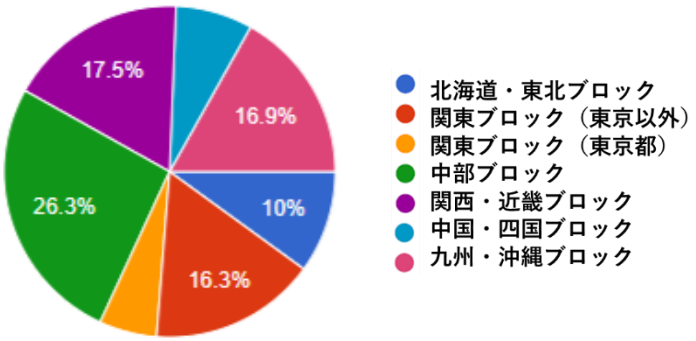

図 3　勤務・在学しているブロック

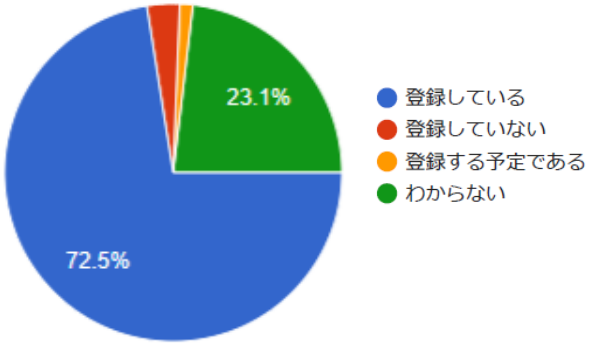

図 4　JANPU 災害連携の登録

2)　令和 6 年能登半島地震 JANPU 被災状況調査結果の報告

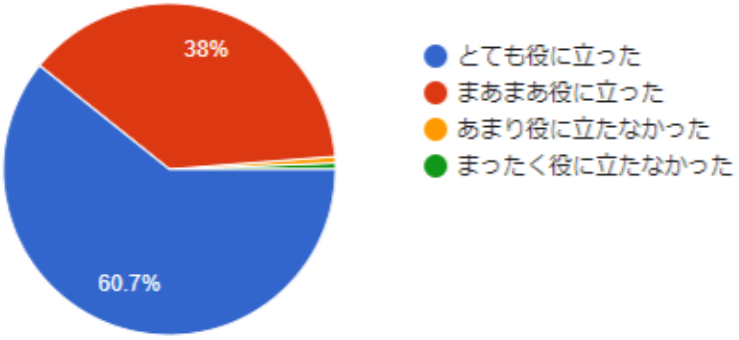

図 5　令和 6 年能登半島地震 JANPU 被災状況調査結果の報告

役に立ったと思った事柄（73 件のまとめ）

(1) 災害支援対策委員会の活動・取り組み
(2) 小ブロックでの情報共有の重要性
(3) 自大学の備えの見直し（長期休暇中の対応、課題の明確化、安否確認、メンタルヘルスケア等）
(4) 大学間連携の支援に関するアイディア等
(5) タイムリーな内容
(6) 各大学の被害状況

3)　『災害の備えに関するアンケート調査』結果の説明

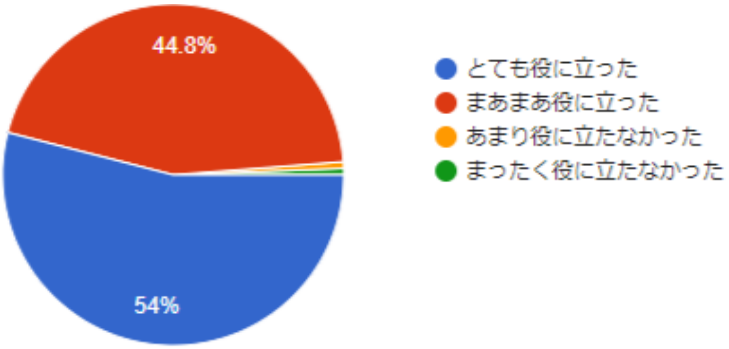

図 6　『災害の備えに関するアンケート調査』結果の説明

役に立ったと思った事柄（79 件のまとめ）

(1) BCP 策定状況・災害発生時の危機管理体制
　・学生の安否確認システム
　・マニュアルの準備
　・国家資格に関わる教育のあり方
　・備え方について状況をさらに具体的に想定して考え、実装しておく必要性
　・備蓄、具体的な備蓄量と品
　・大学で話し合っておく必要性、FD の活用
(2) 大学間の連携の重要性
(3) JANPU 防災マニュアル指針の活用の必要性と課題

(4) 学生への災害時の指導教育などの課題
(5) 会員校（全国）の状況の把握、自施設の振り返り（不充分さの認識）
国公立と私立の差
(6) 今後に向けての課題

4) 2023 年度災害支援対策委員会ブロック活動の概要

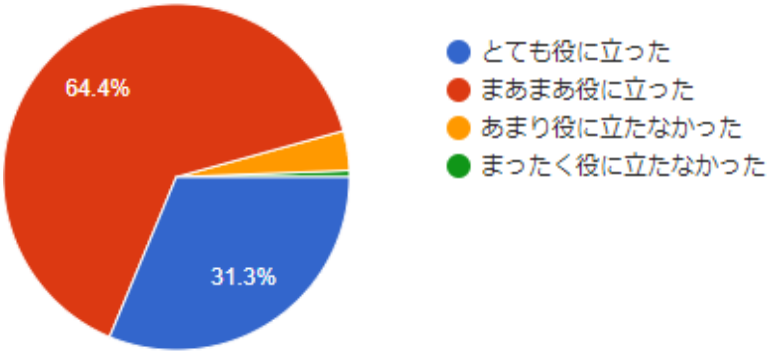

図 7　2023 年度災害支援対策委員会ブロック活動の概要の説明

役に立ったと思った事柄（67 件のまとめ）

(1) 他ブロックの活動
・BCP 作成
・活動内容の違い、格差
・具体的な活動
・話し合いテーマの内容
・スプレッドシート記入による情報共有
・災害看護教育に関する情報提供
・自ブロックの課題
(2) 自部署の取り組みへ活用
(3) 災害支援対策委員会ブロック活動の存在、活動、連携、体制、頻度
(4) 大学同士の連携の必要性

5) 災害対策に関する大学の事例報告

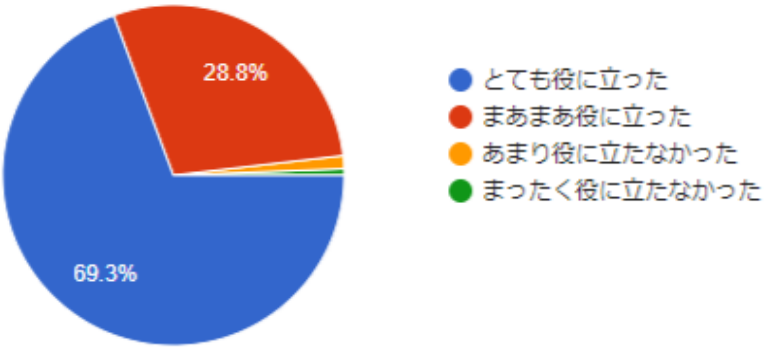

図 8　災害対策に関する大学の事例報告

役に立ったと思った事柄（88 件のまとめ）

・「災害看護プログラム」をカリキュラムに取り入れ、基礎教育から災害についての知識・対応を学ぶ取り組みは、本校でも重要視したい
・仮設住宅訪問・傾聴ボランティア・こころのケア活動
・ポートフォリオの活動や災害ボランティアの活動
・初動の早さや、具体的な動き、地域を巻き込んでの継続的な防災活動
・地域住民を主役としての取り組みの大切さ
・防災士取得も、教職員・学生等すべてが災害対策を意識するために必要な方法である
・被災訓練・アクションカード
・最新の具体的な備え
・環境面での大学としての準備
・専門職としての意識の高さと行動する力は見習いたい
・教室の防災用品のロッカー設置
・厳冬期間の災害を想定した取り組み
・学生を巻き込んでの体験活動
・災害に備える必要性を強く感じた
・地域特性を知ったうえで学生が地域住民と関わる事で災害をはじめ、防災・減災について考え、主体的な活動につながっていくと感じた
・教員がいなくても学生だけで安全避難ができるには、日頃から意識させることや訓練することの重要性を実感した
・1 年生から 4 年生まで一貫した災害教育の実施
・参考にしたい。考える機会になった。具体的に知ることができた
・実践的でよかった
・写真として記録されているところ
・各大学の地域特性や大学特性での具体的な対策の検討
・演習の参考になる
・地域貢献、社会貢献活動までおこなっている点
・学生が主体的に考え、災害対策に取り組めるような仕組みや取り組み
・学生への防災教育を考えていく上で参考になった
・本学でも取り組みたいと思った事例があった
・各大学の工夫された内容
・教育プログラム
・課題を解決するために他機関で取り組むこと
・ブラックアウトを想定した宿泊演習など
・先駆的な取り組みを知ることができた
・地域の気候や季節に応じた防災対策を考える必要性
・大学と地域の連携の状況

＜感想・反省点・今後の課題等＞

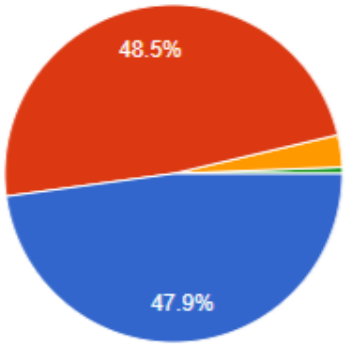

図 9　2 月開催への評価

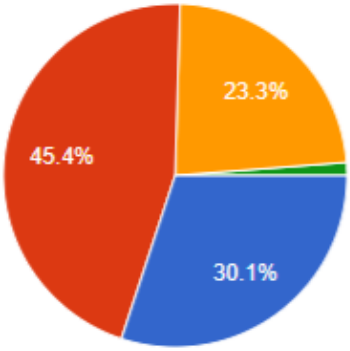

図 10　休日開催への評価

とても良かった
まあまあ良かった
あまり良くなかった
まったく良くなかった

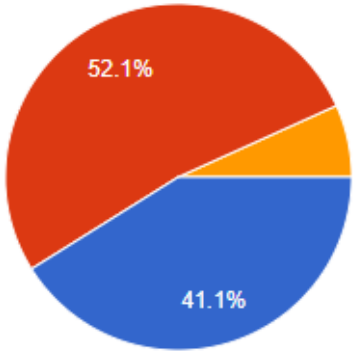

図 11　午後開催への評価

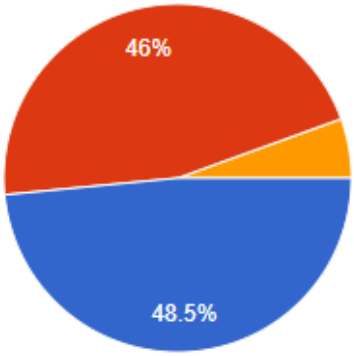

図 12　開催時間(2 時間)への評価

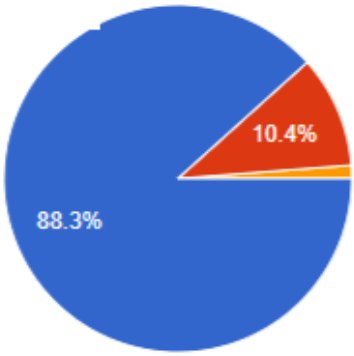

図 13　Zoom 開催への評価

開催方法については、昨年度の結果を踏まえ、オンラインでの開催とした。開催方法に関する評価は図の通りであるが、概ね昨年と同じ回答である。2 月の土曜日の午後に開催とし、能登半島地震の影響もあり、当日の参加者は減ったものの事前登録は 300 を超え、昨年以上に多くの方に参加していただいた。予定していた 2 時間を変更せずプログラムを追加したことから、参加者の意見では、プログラムの多さ、時間配分に関して指摘があったが、開催時期、時間に関する評価は昨年同様、概ね賛同を得ている。また、能登半島地震についてもタイムリーであるなど、好意見も見られた。盛りだくさんとなったが、フォーラムに関するアンケート結果から、自大学の防災の見直しにつながる内容となったことが推測される。災害連携ネットワークの活動に関しても、登録校 100%を目指し、今後も連携の強化につなげたいと考える。

＜フォーラムに関する質問、意見、感想＞（54 件のまとめ）

・BCP については、法人、学部、学科レベルで検討・確認が必要
・全国の先生方のお話を聴く事ができ、大学としての防災の必要性を強く感じた
・備えは大切である
・安否確認の課題
・組織的な壁についてはどこも同じ問題を抱えている。様々な場面でバイアスに警鐘を鳴らす取り組みが欲しい
・様々なアイディアを得た
・タイムリーな企画

・興味深い内容。重要な企画。学習の機会となった
・毎年恒例として継続していただきたい
・自大学の防災について考える機会になった
・自分自身の対策も必要であることを感じた
・音声状況の乱れが時々あり、聞こえない部分もあった
・各演者が駆け足気味だった
・もう少しゆとり（余裕）のある時間配分がよい
・まとめての質問だと質問しづらい
・どのように取り組んできたかといった事業取り組みのプロセスに焦点を当ててご紹介いただきたい
・所属大学に活かせる情報が得られた
・各ブロックの活動報告はもう少しコンパクトに、先進的な活動をされている大学の活動の報告に対してもう少し討論の時間をとってほしい
・各大学の事例共有では、取り組み内容のアイディアとして参考にするだけでなく、実際に取り組んでいくための組織づくりも大事だと思う。発表内容にステークホルダーとの調整がどのように行われたのかや、大学内で関与している人の全体像が見えないものもあったため、今後はそのような仕組みや組織の観点があるとよい
・活動されておられる先生方のお顔を拝見できたことは対面開催までいかなくとも活動が身近に感じられた
・看護系大学としての災害対策の現状がわかり、自部署でも検討していきたい
・自大学の対策の遅れを認識した
・発表時間が超過し、質疑の時間がほとんどなかった
・実習中の被災を想定した取り組みを知りたい
・所属する大学の教員にも情報共有し、意識を高めていく必要がある
・盛りだくさんな感じがした。内容を吟味する必要があった
・多くの教員が知っておく内容だった。どのタイミングでいつ行われることがいいのか、参加を促せるようにまとまるとよい
・オンライン開催は大変ありがたい
・今回の能登半島地震で、直後から災害支援対策委員会が動かれていた内容を知ることができた
・ブロックごとに、災害を想定した連絡、調整、情報収集の訓練などがあってもよい
・大学の災害対策は、一部の熱心なスタッフ教員がいても、なかなか学部学科全体の取り組みには繋がりにくい。管理職の方々が参加されるようなPRをされたらよい
・調査報告と大学の取り組みのプログラム構成が大変よかった
・能登半島の震災で、電気やインターネットが長期間きかない状況が生じることがわかり、情報連携が難しい場合の対応を知りたい
・能登半島地震直後でタイムリーな報告が盛り込まれていた点がよかった

＜今後開催してほしい企画＞（27件のまとめ）

・Z世代の若者に効果的な避難訓練について
・それぞれの大学の具体的取り組み
・学生同士の交流ができる場の提供や企画

・会員大学間の災害時の連携訓練
・休日の 2 時間の考え方だが、講演者の先生を 1 名とし、1 時間以内に終了するようにランチョンセミナーのような時間とシリーズ開催にすることや後日配信の視聴を可能にするのも一案かと思った
・国立大学で整備されているという大学の BCP の紹介（学生の生活や教育対応に係る部分）
・今は当事者の目線（看護大学側）からの発表だが、逆側（例えば、連携先の地域や社会福祉施設側）からの目線に立った発表。首都圏の場合、広域避難場所が果たしてすべての住民や避難民を受け入れられるか、いつも大丈夫かと不安に思っている
・今回のような、各大学の取り組み
・災害時を受けた学生の心理的サポートの講演
・今回の能登半島地震の被災状況や課題をタイムリーに投げかけてほしい
・企画時期は、この頃はまだ授業や試験などがあるので、落ち着いた 3 月上旬がよい
・開催日は、平日の 18 時くらいからがよい
・災害には、気象の変化（温暖化による夏の真夏日や洪水、豪雪等）によるものがあって健康被害が懸念されている（プラネタリーヘルス）が最近聞くことがあるので、看護職として求められることなども話題にしてほしい
・災害看護について実際行っている事や現況
・災害時の各大学の受援計画について取り上げていただきたい
・災害弱者への対応について
・実習がない 2 月末から 3 月初旬が参加しやすい
・実習中の被災を想定した取り組み
・春から夏にかけて地震が起こった際の防災対策。季節や気候による影響や物品の違い、被災した住民の方の健康状態など、今回の報告内容と異なるのか
・生きた防災訓練の内容
・大学間でのボランティアの受け入れなど
・能登半島地震での経験を全国的に共有できるような企画を年内に行っていただきたい
・被災地での支援の実際を発表してほしい
・学部構成などが似ている大学で組織づくりが比較的整っている大学の方に個別に相談などできる機会があるとよい
・BCP 作成など、必要性はあるものの未対処になっていることを進めているブロックもあり、どのようにやっているのか、知りたいと思った

<u>ご意見に関する回答</u>

ご意見：後日のオンデマンド配信に関して検討していただきたいです。
回　答：今回はご講演に対して、後日の配信を想定せず、演者の先生方に依頼しているため、実施することができません。ご期待に沿えず申し訳ございません。

ご意見：日本災害看護学会との連携は、どのようになっているのでしょうか。
回　答：能登半島地震後に、本会の守田災害支援対策委員長、日本災害看護学会、その他看護系学会との情報交換が行われております。また、日本災害看護学会第 25 回年次大会では、中国・四国ブロックの方が交流集会を開催されたこともあります。

ご意見：大学内へ伝達講習を行いたいのですが、本日配布された資料をもとに（特に能登半島地震のJANPU 被災状況調査結果報告、災害の備えに関するアンケート調査結果）を報告させていただいてよいでしょうか。

回　答：本報告書にも掲載されますが、本会の調査結果などは、JANPU のホームページ上で公開されていますので、ぜひ学内でご共有ください。

ご意見：藤田医科大学で取り組んでいる防災士の取得の取り組みについてです。「災害看護学」と言う科目を構築しているのかどうかはわかりませんが、その教育内容とのすみわけをどのように行っているのでしょうか。本学では、「災害看護学」の授業の中で上級救命講習の資格を取得してもらっています。防災士も意識付けにとても有効だと思いますが、災害看護学の授業内容とかなり重複する部分もあり、お伺いする次第です。

回　答：ご質問ありがとうございます。本学では、4 年生で「災害看護」という科目名で災害看護学に関する講義を行っております。ご指摘いただいたように防災士を取得するために受講する講義と災害看護の内容で重複する部分が多くあります。災害看護の内容で防災士とすみわけ・工夫している点は以下となります。

・災害の基本的な内容（災害の種類や特徴、避難所の特徴、ボランティア・防災士の役割）は、防災士で学修内容の復習を行って比較的簡潔に説明しております。

・要配慮者（高齢者や小児、慢性疾患患者・地域で生活している疾患を持つ方等）への災害時の対応、災害に関する法整備、被災者・支援者の精神面の看護など、防災士の講義で詳しく触れていない看護に関する内容を実施しております。

・付属病院の DMAT 隊員や防災管理者に講師として来ていただき、病院の災害対応・被災地での DMAT の活動、発災時の臨床看護師の役割、病院の BCP などの講義を実施しております。

・演習はトリアージタグの使用や病院で使用している避難器具（イーバックチェア、エアーストレッチャー）を使用・体験をしております。

防災士の取得が始まりまだ日が浅く、まだまだ災害看護の講義内容を工夫する必要があると感じております。本学では、来年度より 1 年生で防災士の取得、4 年生で災害看護と防災士取得から災害看護の講義まで時間が開くこともあり、今後も講義内容を検討していく予定です。